

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人みちのく福祉会 こども発達支援センターりりい		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 7日		令和 7年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 37名
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 7日		令和 7年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「総合病院小児神経科Dr」が「内科健診」に來所し保護者に養育アドバイス等がある。また、看護師が配置されていることで安心感が高い。	「医療的ケア児」や「肢体不自由児」も利用しているため「総合病院リハビリテーション科」への見学・情報交換などを積極的に行っている。	医療面に関する知識を深めるとともに、保護者との情報共有及びりりいとして提供できるサービスの充実を図っていく。
2	インクルーシブ社会の実現に向けた取り組みとして地域向けの研修会を継続して開催している。テーマの設定に関しても保護者のニーズを加味している。	保育園等を利用していない児童(りりいのみ利用)を中心に隣接保育園と連携して「社会性」「経験値」を高めインクルージョンの促進を図っている。	保護者だけではなく様々な方々に事業所を見学してもらい障がい児への理解を深めていただく。研修会に関しては継続実施していく。
3	「放課後等デイサービス事業」「相談支援事業」「保育所等訪問支援事業」も実施しているため、継続的・総合的な支援が提供できる。	関係機関・関係者との繋がりが不可欠という思いから「地域自立支援協議会」「保育園・小学校」「事業所」「児童相談所」「行政」などと情報共有を進めている。	今後も保護者や保育園、教育委員会など関係機関との情報共有と連携を深め、児童にとってより良い就学に向けた支援と取り組みを提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	様々な活動や取り組みを進めているが、保護者の方々に周知されていない印象があるようです。	連絡帳での児童の様子確認や保護者の方々の活動見学・情報交換の場を設けていますが不足しているのかと感じます。	保護者懇談会(研修会)や活動見学・情報交換の場をより多く設けていき必要に応じてタイムリーに対応する体制を整えていきたいと思っています。
2	安全対策などに関するマニュアルは作成しており訓練は実施していますが把握されていない印象があるようです。	マニュアルは作成し事業所に掲示していますが実際に目にするのが少ないのかと感じます。	保護者の方々に資料を配付したり、ホームページに掲載して理解していただくようにしたいと思います。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	社会福祉法人みちのく福祉会 こども発達支援センターりい					公表日	令和 7年 2月 27日			
					利用児童数	38名		回収数	37名	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	34	2		1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	32	1		4				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	36			1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	37				とても綺麗だと思います。		今後も感染対策を含め清掃・消毒など徹底していきます。	
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	35	2					専門誌の定期購読・研修会への参加などスキルアップに取り組みます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	32			5			報告・説明する機会をより多く設けたいと思います。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	37							
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	33			4			情報交換やモニタリングの機会をより多く設けていきたいと思っています。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	35	1		1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	32	1		4	いろんなことをやってくれと思います。		ホームページの内容を充実させ理解していただくよう進めていきます。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	27	4		6			今後も隣接する保育園の行事に積極的に参加していきます。	
保護 者へ の説 明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	37							
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	37							
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	30	4		3			今年度は保護者研修会にて「ペア・トレ」を学ぶ機会を設けました。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	36	1						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	31	3	2	1			保護者の活動見学や情報交換の機会をより多く設けていきます。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34	1		2				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	4	3	10	保護者向けの研修会がありました参加できませんでした。		今年度も保護者研修会後に「茶話会」を設けました。	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	33	1	1	2			様々な機会を通して充実させていきます。		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	35	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	27	3	1	6		ホームページの内容を充実していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	31			6	行われていると思うが分からない。	マニュアルは作成し訓練も実施しています。ホームページなどで周知していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29			8	行われていると思うが分からない。	マニュアルは作成し訓練も実施しています。ホームページなどで周知していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34			3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	33			4		事象があった場合は適切に対応させていただきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	36			1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33	4			張り切って通っています。	今後もより良い支援を目指していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	36	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人みちのく福祉会 こども発達支援センターりりい		公表日 令和 7年 2月 27日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	90%	10%		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	90%	10%		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	90%	10%	視覚支援を活用しています。	動線に改善が必要かと思えます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		毎日振り返りの時間を設けています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	90%	10%		今後も研修機会を設けていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		ホームページで公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		毎朝全員で「ミーティング」を行い周知しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		毎日振り返りの時間を設けています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		保育所等訪問事業、保育園等との情報交換を通して情報共有・相互理解を図っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		市教育委員会の来所・情報交換を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)			研修会を企画し参加いただいている。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	100%			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	100%		県発達障害者支援センターの施設支援を受けたケースがありました。	今後も研修の機会を設けていきます。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100%		部会員、講師等として参加しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%		近隣の保育園行事に参加しています。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	90%	10%	外部講師を招聘し「保護者研修会」として実施しています。	今後も研修の機会を設けていきます。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		保護者研修会を企画し放課後等デイの保護者様も参加しています。研修会終了後に「茶話会」を設けました。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	90%	10%		ホームページの内容を充実させ周知していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	70%	30%		地域向けの研修会は毎年実施していますが課題として検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	90%	10%	マニュアルは作成し訓練もしています。	ホームページの内容を充実させ周知していきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		マニュアルは作成し訓練もしています。	今後も計画的に進めていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			今後も計画的に進めていきます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	90%	10%		取組内容を理解していただくよう進めていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	90%	10%		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			今後も法人虐待防止研修などを活用していきます。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	90%	10%	事例はありません。	今後も法人身体拘束研修などを活用していきます。	